

第二部 ミミズ酵素・ルンブロキナーゼが血栓を溶かす

第七章 ミミズ酵素の患者さんでの服用結果 その1

この章では、いくつかの症例をご紹介します。

症例より：バージャー病 43歳男性

1992年12月頃より右足の第1趾に痛みが起こり来院。足先も冷たく感じる冷感症状も有り、蜂窩織炎と言う皮下組織の感染症も起こしており、脹れと痛みもあり大変苦しんでおられた。

検査の結果、バージャー病と診断され薬を服用。潰瘍のみ良くなったが、病状は改善せず、悪化し間欠性跛行の症状も出始め、30メートル程歩くと足に痛みが出て歩けなくなりました。

250mgのミミズ凍結乾燥粉末が入ったカプセルを1日3回、2カプセルずつ計6カプセル服用開始。約10日後には冷感がなくなり、700メートルくらい痛みなく歩けるほどに回復。冷感がなくなるということはそれだけ血流が回復した事の表れでもあります。皮膚の色にも変化が出始め、足の脈も触れるようになりました。服用6週間後には、間欠性跛行の症状もなくなりました。

実は服用15週間が経ったとき、健康診断で便に潜血反応が出ているという指摘を受けました。内視鏡検査の結果、上部消化管に糜爛性胃炎が見つかり、止むを得ず服用を中断することになりました。すると、中断して1か月程経ったときから歩行時の痛みが出始めました。明らかにミミズ酵素がバージャー病の患者さんに効果があるという証拠になったわけです。

痛みがまた出始めたことから、患者さんご本人からミミズ凍結乾燥粉末の服用の強い要望が有り、胃薬と一緒に服用を再開してもらうことにしました。その後は痛みもなく歩行も出来るようになったと報告を受けました。

バージャー病とは四肢に出来る血栓症で、特に下肢の動脈で良く起こり血栓と一緒に炎症が起こるので痛みを伴います。歩いていると足の先が痛くなり、休むと痛みが取れ歩きだせる、これが間欠性跛行。病気が進行すると、血流が途絶え栄養状態が悪くなり皮膚に潰瘍が出来、最後には壊死してしまうこともある深刻な病気です。



動脈硬化が進み、血流が減っている血管

血流が滞り、神経が損傷している状態

第二部 ミミズ酵素・ルンブロキナーゼが血栓を溶かす

第七章 ミミズ酵素の患者さんでの服用結果 その2

この章では、いくつかの症例をご紹介します。

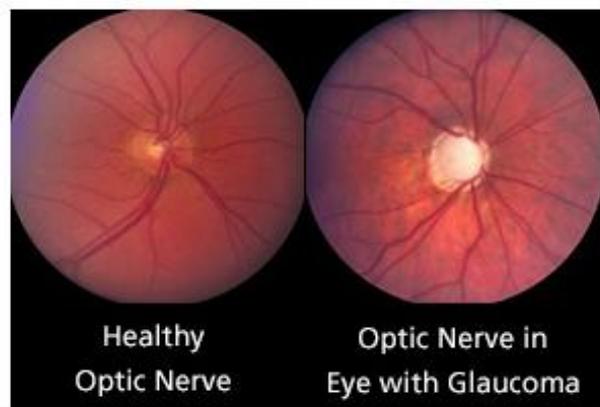
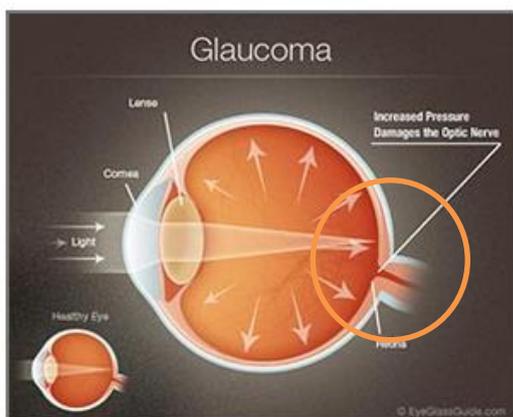
症例より：正常眼圧緑内障 61歳女性

高血圧、高脂血症、頸動脈硬化、脳梗塞、下肢静脈瘤、糖尿病予備軍、とたくさんの病気を併発されている薬剤師さんで、気付いた時にすでに緑内障もかなり進行していました。視野障害の進行を少しでも止められないかと西洋医学による点眼薬治療を受けておられましたが、少しずつ進行している状態でした。そこでもしかしたら末梢（眼）の細動脈の血流改善に良いのではと期待して、ご自身で見つけてアカミミズ酵素を服用し始めました。

1回2カプセルを1日3回服用したところ、服用翌日に足がパンパンに脹れあがり、体質に合わないのでは、とあわてて博士の前著「血栓は倒れる前に溶かせ」の本を読みなおした結果、血液ドロドロだったため、フィブリンが一気に分解され、フィブリン分解産物が大量に出てきたのだろうとご自身で判断され、そのまま服用を続けて3日目に、眼を疑うほど鮮やかにTVの画面の色が飛び込んできたそうです。さらに5週間後には足首の外側がポカポカと暖かくなってきて、眼の下のクマが徐々に取れてきたそうです。

その後は維持量として1回2カプセルを1日2回服用、すでに2年間継続服用しているそうですが、視野狭窄の進行はなんとか抑えられているとのこと。ただしアカミミズ酵素の服用だけで緑内障を治すことは不可能です。視野障害の進行を遅らせる為の眼圧を下げる点眼薬は必要な治療です。

正常眼圧緑内障とは眼圧は正常範囲なのに視野狭窄が進行するわが国では圧倒的に多い（全体のおよそ70%）緑内障です。視神経に異常がおきる病気ですが、日本人では40歳以上の20人に一人が緑内障とされています。最も一般的な症状は、視野（見える範囲）が狭くなったり、一部が欠けたりすることです。その原因として食生活の乱れや喫煙なども言われており、眼圧の異常だけにとどまらない生活習慣からくる問題も無視できないと考えられています。そういった観点から、アカミミズ酵素の服用で全身的な血流改善が起こり、結果的に緑内障にもなんらかの効果をあげたのでは、と推察します。



健康な方の視神経周辺 緑内障の方の視神経周辺

第二部 ミミズ酵素・ルンブロキナーゼが血栓を溶かす

第七章 ミミズ酵素の患者さんでの服用結果 その3

漢方薬の中にもミミズが使われています。地龍（じりゅう）と呼ばれ、解熱剤として扱われることが多いようです。実は解熱成分は主にミミズの皮の部分にあります。

美原博士が発見したミミズ酵素ルンブロキナーゼは、ミミズの内臓に含まれる消化酵素ではないかと考えられています。皮の部分にはむしろルンブロキナーゼの作用である“溶かす力”を抑制する物質が含まれることがわかっており、血栓を溶かして血流を改善させる線溶活性化酵素として利用するには、ミミズの皮はなるだけ取り除く必要があるのです。

現在ミミズ酵素含有健康食品は、日本国内はもとより、アメリカ、カナダ、中国、台湾にて複数の会社で製造・販売されており、多くの愛飲者がおられます。「より多くの方にミミズ酵素ルンブロキナーゼを服用してもらって健康になって頂きたい。」というのが、酵素発見者であり医師である美原博士の唯一の想いであり希望ですが、そのために大切なことがミミズ酵素粉末の安全性です。また線溶活性がきちんと明確なデータとして保証されていることも重要になるでしょう。

「ミハラルベルス」は美原博士の長年のご希望を取り入れた商品です。高い活性力価が確認されたアカミミズ粉末が、他の製品に比べて最も多く含まれています。また、カプセル化のために必要な素材は天然食材を使っており安全です。長く服用する方々には効果を確実に感じていただけるように、また医療現場で紹介して下さるお医者様には、患者様の効果を科学的に検証しやすいように作られているのです。



服用後の患者様の血液を採取して効果を確認している例

●これからの研究活動と将来展望

生活習慣病として問題になるのは、糖尿病、高血圧、動脈硬化などです。これらの病気はすべて血流の悪さや血管の病気から発症します。ミミズ酵素が血栓を溶かすことによって、血管内は掃除され、血流は改善します。生活習慣病に対してどのように寄与できるか、今後の研究課題となっています。

第三部は美原博士とミミズ生態学者 渡辺弘之氏との対話ですがこの部分は割愛します。次回は第四部「血液の循環不全は万病の元・血液の循環が悪くて起こる病気」についてのダイジェストをお送りします。